

大項目	事業所評価アンケートで該当する質問	
業務改善	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	継続)個人ごとの業務予定の共有・把握ができるよう、共通のオンライン上でのシートを活用していく。
	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等 等の意向等を把握し、業務改善につなげているか ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	継続)保護者から頂いたご意見をもとに、職員共有、改善に努めている。 継続)週次ミーティングを行い、職員間で情報の共有・改善をしていく。 継続)ヒヤリハット発生時、報告書を共有している。 継続)オンライン参観など、保護者に見学いただく機会を設け、定期的にアンケートを回収している。
	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	継続)自己評価の結果を公表し、改善していく。
支援内容の充実化	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	継続)個別対応が必要な際は、静養場所等の活用や人を変えて対応をするなどの準備をしている。
	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	継続)認定こども園との合同研修、事業所内研修、外部研修に参加する機会を確保する。
	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	継続)アセスメント一個別支援計画作成→支援→改善のPDCAサイクルを重視していく。児童発達支援ガイドライン、放課後等デイサービスガイドラインに則り、計画の作成・支援を実施する。
	活動プログラムの立案をチームで行っているか	継続)運動・学習ともに、プログラムの意図や狙いを明確にし、必要な情報を保護者にも共有していく。
	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	継続)職員全体で活動プログラムのミーティングを行い、内容の確認をしていく。
	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	継続)管理者がすべての支援経過を確認し、振り返りを行うとともに、毎月保護者にも適切に共有していく。
	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	継続)支援と同時進行で記録者を設定しているほか、支援後に支援者も共有シートに情報を記載している。
	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	継続)支援の終了後に日々の振り返り業務報告、申し送りを行い職員間で共有している。
	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	継続)安全管理面で、防犯カメラの設置とともに、倉庫には鍵を設置し、子どもが入らないように(死角を無くすように)改善を行っている。
	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	継続)無学年式オンライン教材すららを導入し、一人ひとりの学習状況を把握し、学習内容を設定していく。
	定期的なモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	継続)放課後等デイサービスにおいては、小学校や中高教員免許保有者を配置し、専門性の高い支援できる体制を目指している。
	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	継続)送迎ドライバーを専属で配置し、保育士や児童指導員等が支援に集中できる環境を整えている。
管理体制	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	継続)認定こども園と合同で研修の機会を確保する。
	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	継続)アレルギー児に関して、認定こども園における給食(おやつ)提供での管理体制を用いて、エラーがないよう徹底していく。
	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	継続)外部の研修会での受講等も進めていく。
関係機関連携	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	継続)児童発達支援センター(港南療育センター)との連携を強化し、一丸となって支援を提供する。
	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	継続)子どもが通園、通学している学校等の連携は引き続き実施する。
	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	継続)小学校の放課後キッズクラブとの連携も強化していく。(バスの時刻表やバス利用児の周知、待機場所の確認を行う)
	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	継続)学校職員との話し合いをし、保護者、利用者ができるライフスタイルの考案等、改善できる点の共有をおこなった。
	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	継続)保護者によって関係機関へ情報共有をするなど、利用者の現状を事業所の視点も加えておこなった。
	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	新規)小学校や幼稚園との連携を強化し、必要な支援(保育所等訪問支援など)の提供ができる体制を整えていく。
情報共有	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	継続)定期面談に加えて、ご希望に合わせて進学や今後の予定についてのご相談対応に努める。
	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	継続)各マニュアル関係は保護者の方が見やすいものへと改善し、確認できる状態へ更新作業に努めている。
	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	継続)保護者のニーズにあった情報提供体制をつくる。
	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	継続)定期的に、活動内容やイベント情報について保護者に情報を共有する体制を整えていく。Googleクラスルームでの活動及び支援内容の情報更新を随時行っている。
	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	継続)各マニュアルについては年1回全職員の集合研修を行っている。また、改定時には職員に通知を行っている。
	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	継続)個別支援計画・モニタリング等の定期面談とは別に、要望に応じて個別に相談・助言を行っている。
	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	継続)月に一回、火災・地震を想定した訓練をおこなっている。1月は月曜日利用者、2月は火曜日利用者、3月は水曜日利用者…と、極力全利用者が避難訓練を実施できるようにスケジューリングを行っている。非常階段の使用や、自動扉の開閉確認などに共有している。
	個人情報に十分注意しているか	新規)火災想定した避難訓練に加え、消火訓練として実際の消火器の使用方法について動画視聴し、非常時に備えた知識を高める機会を取り入れた。
	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	
	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	
	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	
非常災害の発生に備え、定期的に非難、救出その他必要な訓練を行っているか		